

思いが伝わる情報デザインツール

片山育美 † 大田昌幸 †† 田中和紀 †††

インターネットの発達と普及によって、誰でも簡単に情報発信できる世の中になった。blog、フォトシェアサービスを使うユーザは、自分の発信した情報をだれかに「伝える」楽しさや感動を知っている。しかし、現在の情報表現は見た目のデザインに特化した表層的なものに留まっている。情報を目には見えない情報構造(重要度、順序、関連性)にもとづいて可視化する「情報デザイン」のプロセスを体系化し、ノウハウをプログラム化することによって、専門的にデザインを学んでいない人でも情報デザインを行う事ができるツールの開発を行う。

Information design tool telling person's own feeling to readers

IKUMI KATAYAMA ,† MASAYUKI OHTA †† and KAZUKI TANAKA †††

Thanks to development and spread of Internet, everyone can publish own messages. Users utilizing blog and photo share services know the enjoyment and impression of publishing own messages. However, today's some information representation is only designed visually. We systemized information design process and know-how, which is based on information structure such as importance, order and relationship. We developed information design system for users who haven't major in design and that let them make use of information design.

1. 序 論

従来より、広告等マスメディアから配信される「情報」は、ターゲットとなる消費者に対してどう伝えるかを事前に提供者側でよく話し合われてきた。不特定多数の第三者に「情報」の内容を「伝える(理解してもらう)」ためには、第三者が認識出来るレベルで情報を整える「編集」作業が必要である¹⁾。

しかし近年、インターネットの発達と普及に伴い、個人の情報発信が容易になったため、専門職によって行われていた編集作業が行われていない情報があふれている。個人の情報発信に良く用いられるblogは、編集の過程を通さないため、執筆者の文章構成力によって伝わりにくい文章になる場合がある。また、blogはテンプレート上に文章と画像を挿入するだけの単調な表現しか行う事が出来ない。

こうした問題に対し、我々は「思いが伝わる情報デ

ザインツール」を提案する。本ツールが情報を自動的に収集、整理、構造化して視覚化することで、読者に伝わるように内容を整理する。本ツールを利用することで、個人の多様な表現の更なる可能性を期待出来る。

2. 情報デザイン

情報デザインとは、情報設計と視覚表現の二つのフェーズを持った情報編集プロセスである(図1)。情報の関係性や情報の意味を定義することで情報を設計し、設計された情報構造に基づいて視覚表現に落とし込む。具体的には関係の近い情報(図1内での開催情報)をまとめ、ページやイラストにキャプションを付け意味付けをすることで、情報を構造化し、読者の理解し易いレイアウトに配置する。

情報デザインを行うと、視覚的に優れたレイアウトが行えるだけでなく、第三者が認識しやすい形に情報が配置されることになる。

3. 提案ツール「思いが伝わる情報デザインツール」

我々は、編集者が暗黙のうちにしている情報デザインの過程を以下の4つに分け、ツールを開発した。

† 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科情報デザインコース
Department of Interaction Design, Tama Art University

†† 早稲田大学大学院基幹理工学研究科情報理工学専攻
Department of Computer Science and Engineering,
Waseda University

††† 工学院大学大学院工学研究科情報学専攻
Graduate School of Informatics Engineering, Kogakuin
University

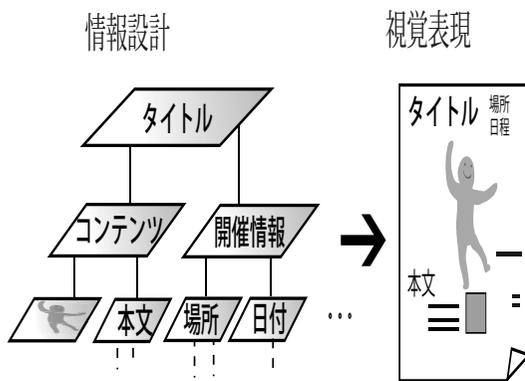


図 1 情報デザイン

- (1) 情報収集
- (2) 情報整理
- (3) 情報設計
- (4) 情報可視化

「思いが伝わる情報デザインツール」は、この4フェーズを踏む事で情報デザインされた Web マガジンを発行するツールである。この過程はユーザーの関わりが深くなるため、楽しく情報設計出来るようにユーザーインタフェース (UI) を実装した。

情報を的確に伝えるためには「何を」「誰に」「どう」伝えるかを明確にする必要がある。本ツールの4フェーズを通過すると、ユーザーはこれらを明確化することができる。

本ツールは blog の様に日常的に使用するものではなく、「みんなで行った旅行を一つの Web マガジンにまとめて友達に伝える」、「日々書いているカフェ巡りの日記を整理してまとめ、カフェ巡りマガジンを発行する」といった利用を想定している。

3.1 提案ツールの詳細

本ツールにおける4フェーズの詳細を以下で述べる。

3.1.1 情報収集

情報収集フェーズでは、ユーザーが別々のサービスに格納している情報をツールが自動収集する。現在本ツールでは以下のサービスからの情報を自動収集する。

- mixi フォト、日記
- twitter のつぶやき
- フリッカーの写真

3.1.2 情報整理

情報整理フェーズでは、自動収集したユーザーの情報を俯瞰できるように提示する。ユーザーは俯瞰できる UI を利用する事で、自然に自身の頭の中も整理でき、利用したい情報の選択がしやすくなる。提示の仕方は以

下の3種類を用意した。

- 情報源毎に提示
- 時間軸、カレンダーで提示
- キーワード毎に提示

情報毎に俯瞰しやすい表示方法が異なるため、本ツールでは3つの表示方法をユーザーに提供した。例えば、旅行の情報は時系列毎に整理されることで流れを俯瞰しやすいメリットがある。

3.1.3 情報設計

情報設計フェーズでは、ユーザーが情報の重要度や順番を付ける。例えば、旅の思い出の中で特に見せたい写真に重み付けをすることで、情報可視化ステップでその写真を大きく見せる事が可能になる。また、旅行で巡った順番通りにユーザーが並べる事で、マガジンを見た利用者が旅行を追体験する事が出来る。

3.1.4 情報可視化

情報可視化フェーズでは、システムのサポートを受けながら1~3のステップでユーザーの手によって設計された情報構造をもとに、ツールがレイアウトを自動で行い、Flash 形式の Web マガジンを発行する。1~3のステップの中で情報に優先順位や重み付けがされているため、情報が読者に伝わりやすいマガジンが発行される。

4. まとめ

我々は、情報を目には見えない情報構造 (重要度、順序、関連性) にもとづいて可視化する「情報デザイン」のプロセスを体系化し、ノウハウをプログラム化することによって、専門的にデザインを学んでいない人でも情報デザインを行う事ができるツールの開発を行った。本ツールの開発と提供により、個人の表現の更なる拡大の一助になればと考える。

謝辞 本ツールの開発は、情報処理推進機構 2009 年度未踏 IT 人材発掘・育成事業 (未踏ユース) 上期の支援を受けた。

参考文献

- 1) 高柳ヤヨイ: レイアウトのデザインを読む, ソシム株式会社 (2005)